

一般財団法人オアシス ウクライナ避難民支援活動 報告書(詳細)

2023年4月～2024年3月

1. 避難民の生活全般支援

(1)時期:2023年5月～2024年3月

(2)場所:神奈川県横浜市、山梨県、千葉県、大阪府、福岡県、埼玉県

(3)対象者:ウクライナ避難民約25名

(4)内容:

a. 避難民の新規受け入れ

- ・ 4/13(木)に、出入国在留管理庁のマッチングにより、女性1名を受け入れたが、横浜での生活に徐々に慣れることができるよう、買い物や諸々の説明等、必要に応じて日常の支援を行った。
- ・ 当団体が身元保証人になっている避難民の紹介で、山梨在住の避難民母娘を引き受けることになった。母娘は2022年に山梨の受け入れ団体によって来日したが思うような働き先がなく、転出を希望していた。6/7(木)に山梨から母娘と家財道具を横浜に移送。次の支援を行い、横浜で生活できるようサポートした。(山梨の元身元保証人団体とのやりとり、身元保証人の変更、行政等への諸手続、一時滞在先の提供[1か月半]・その間の日常支援、住居探し・住居整備と契約・家財道具手配・ガス電気水道契約、自治会との橋渡し、病院探し、等々)
- ・ その他、避難民の受け入れについて、以下等の相談があり、対応した。
 - 5月:長野在住の日本人から問い合わせ。知人で日本への避難を希望するウクライナ男性の身元保証人になることについて。
 - 11月～1月:日本への避難希望者Iさんとオンラインで面談を重ね、埼玉県鳩ヶ谷市の団体が身元保証人になることを仲介し、ビザの申請をサポートした。しかしビザは下りず来日は実現しなかった。
 - 1月:カナダから来日するウクライナ人への就労支援・日本語学習支援の依頼あり。横浜でのウクライナ就労支援の窓口 YOKE と、日本語学習支援のために、近隣の日本語教室を紹介した。
 - 2～3月:激戦区のおデーサから日本への避難希望の打診があり、話しを聞いた。 他

b. 避難民の生活に関する全般的な支援、日本語学習支援

- ・ 病院探し、通院・ワクチン接種・買い物の同行、送迎、病気時のサポート。
- ・ 在留資格更新手続きの支援、補完的保護対象者申請手続きの支援。
- ・ 銀行口座保有のための支援。カード類作成、不具合があった際の手続き等。
- ・ 避難民全世帯の火災保険加入。(自転車事故の賠償責任保険付帯)
- ・ 行政からの連絡、郵便物に関する相談対応
- ・ 国民健康保険料免除手続き支援、光熱費高騰に伴う補助金申請手続き支援、ひとり親のための児童扶養手当申請手続き支援、住民税納付の支援
- ・ ウクライナへの一時帰国のサポート(手続き等の情報入手、他)

- ・ レクリエーションの提供(メンタルケア)以下に一部を記載する。
 - キックボクシング
 - 外出の案内
 - 7月:避難民の要望により広島旅行を企画・実施
 - 2月:編み物教室、スキーツアー
 - 3月:バーベキュー
 - 2/26-3/1 能登半島地震の被災地での支援活動に、避難民 K さん I さん姉弟が参加。同行・サポートを行った。I さんは引きこもりがちだったが生き生きと支援活動を行った。
- ・ 家族の訪日支援。1月に避難民姉妹のお母様がウクライナから短期来日。ビザ取得支援・航空券手配・空港への送迎・寝具の準備・国内旅行手配等サポートを実施。
- ・ 転居の際の家財道具運搬。
- ・ 日本語学校への入学を希望する避難民のために、学校を探し学校と交渉、面接のために同行、必要書類作成の支援、日本財団の奨学金申込、等を実施した。結果、3名が入学できた。
しかしながら、後日2名が退学。内1名の空席に他の避難民が入学を希望したため、学校と交渉、面接のために同行、必要書類作成の支援 等を行い、入学が叶った。
- ・ 日本語学校に通わない避難民は、地域のボランティアによる日本語教室のご協力によって、日本語の学びを継続できている。

c. 避難民の抱えるトラブルへの解決の手助け

- ・ 近隣からの苦情対応(ゴミ処理・騒音)、電気アシスト自転車の不具合の対応、不審者遭遇への対応と避難民に対するケア、他

2. 避難民の就学・就労支援及び地域等への情報発信

(1)時期:2023年5月~2024年3月

(2)場所:神奈川県横浜市、東京都、宮城県

(3)対象者:ウクライナ避難民約10名、地域住民・イベント参加者等500名以上

(4)内容:

a. 避難民の特性に合わせた就労支援

- ・ 高校生1名はフリースクールを退学して働きたいと希望。本人の意思と状況を考慮しつつ進路相談に応じ、横浜市国際交流協会(YOKE)とともにファーストフード店へのアルバイト就労へとつなげた。
- ・ 山梨から移住した母親の就労についても、YOKE と協力して支援し、衣料雑貨の店舗に就労することができた。その後も就労先との仲介を手伝った。
- ・ 他、避難民4名の就労や就労定着のために、面接同行、就業オリエンテーションに同席しサポート、YOKE と連携し問題発生時に対応、遅刻・休みの連絡、等を行った。

b. 行政と連携し状況に合わせた就学支援

- ・ 当団体も支援して開講したフリースクールでのウクライナ避難民クラスに、避難民の中高生3名が通える

ように支援した。(教材の確保、学費を集める支援、朝起こしに行く等の生活指導、他)
進路相談も適宜行った。

- ・ 山梨からの避難民(小 1)が就学できるように、フリースクールの環境整備支援(教師や送迎者の募集・手配)を行った。また学童保育にも通えるように体制を整えた。最終的には、地域の公立小学校に通学できるように、面談に同行・手続きのサポート、欠席連絡等、学校との仲介などを行った。

c. 支援の呼びかけ、避難民の声の発信、支援イベントの開催と協力

- ・ 5/20(土) わーくくらぶ栄のイベントにて避難民デザインのトートバッグの販売支援
- ・ 5/28(日) 本郷台キリスト教会にて避難民活動 PR
- ・ 6/9(金) 青山学院高等部で活動報告
- ・ 10/14(土) ウクライナチャリティーコンサート開催。於 横浜市栄区。協力 鬼無寿宣氏、Song for Ukraine 他。避難民が歌とピアノを演奏。支援の呼びかけ及びトートバッグ等の販売支援を実施。
- ・ 10/17(火) 横浜南央ロータリークラブ夕食会出席、トートバッグ等の販売支援
- ・ 10/21(土) 「世界食料デー仙台」にて、ウクライナ避難民支援活動報告。避難民 2 名もプレゼンテーションを行った。トートバッグ等の販売支援
- ・ 12/16(土)本郷台駅前クリスマスマーケットにてウクライナブースを出店。雑貨販売支援・募金をよびかけ避難民の寄付金に。
- ・ 他にも、有志のボランティアの方が、各所のイベントやフリーマーケットアプリでウクライナ避難民デザインのトートバッグや手作り雑貨を販売し、ウクライナ避難民の PR 活動を実施。学費に貢献。

以上